

よつば通信



令和5年2月9日
魚津市立よつば小学校
2月号
URL www.yotsuba-e.tym.ed.jp

子供の心に寄り添う教員・保護者に

校長 水橋 渉

2023年、令和5年がスタートし、もう1か月過ぎました。今年度の残された期間、よつばっ子のよりよい成長を願い、教職員それぞれが役割をしっかりと果たしていきます。よろしくお願いたします。

5年生は「陸上養殖体験プロジェクト2022」として、10月から海の恵みと命の大切さを学ぶ活動に取り組んできました。養殖する10匹のヒラメを譲り受け、水槽の管理や養殖の仕方を教えてもらいました。日々の餌やり当番を決め、学年全児童で4か月、世話をしてきました。この間、魚津水族博物館や魚津市漁業協同組合、地元の漁師の浜多虎志さんや調理師の濱多雄太さんと出会い、魚津で生きる人の海や魚、食事に対する思いに十分に触れました。自分たちが世話をしたヒラメを食することで、一人一人が魚津に対する愛着を高め、命に対する見方・考え方を深めていったと感じています。

ヒラメさんへ

今まで元気に育ててくれて
ありがとう!!!

**食べるのはさみしいけれど、おいしく
いただきます。**

ありがとう!!! ひなより

「子供の心に寄り添う教員・保護者でありたい」よく耳にする言葉です。子供の心に寄り添うとは、どういうことでしょうか。

左の枠は世話をしたヒラメを食べる前に、西浦陽菜さんが書いた一言メッセージです。この中で、陽菜さんは「さみしいけれど・・・」と自分の心の内を吐露しています。ひなさんが、ヒラメを食べることに、さみしさを感じているのは、これまで

で世話をしてきたヒラメに対して、友情的な思い、愛情のような感情が芽生え、膨らませてきたからです。さらに「食べる」から「いただく」に言葉を変えていることから、命の重みや感謝の念を実感・深化させていることが伝わってきます。

私は、子供たちが発する言葉一つ一つから、その子の思いを感じ取る必要があると考えています。さらに、その思いの変容をしっかりと汲み取り、成長の証として「大切な命、本当に実感したんだね。おいしかったね」と子供に返すことで、その子の思いを確固たるものにしたいたとも考えています。担任は、子供一人一人と言葉をかけて向き合い、子供の成長に関わりたいという情熱をもっています。

多くの5年生が陽菜さんのような思いをもちました。この取組で得たことを子供たちが自分や学級・学年をより高めるため、どう生活の中で生かしていくか楽しみです。

学校運営の改善に向けて

校時運行の改善

これまで、下校時刻を低学年は午後3時ごろ、中・高学年は午後4時ごろとしてきましたが、令和5年度より教育活動をより充実させるため、下校時刻を長くして30分程度早めます。3月の下校時刻の案内で明記します。また、次年度は、登校時刻について検討する予定です。

集団登校の見直し

これまで学校のきまりとして「登校は集団登校とする」としていましたが、「原則として集団登校とする」とします。なお、事情により、一人登校、保護者による送迎、市民バスの利用等の場合は、学校に申し出てください。登校方法は、原則として保護者による判断と考えています。次年度の登校班は、3月に学校で編成しますが、登校班について地域の保護者で見直しが必要な場合は、学校にお知らせください。なお、次年度以降、3年生以下で実施している集団下校について検討する予定です。